

潮来市の誇れる自然

第84回

水郷の魚たちー

ブラックタイガーが利根川など県内水域に出現！

エビ好きが多いとされる日本人。その膨大な消費量をまかなうため、世界各地からさまざまな冷凍エビ類が輸入されています。その代表格がインド・西太平洋の熱帯域を中心に分布するウシエビです。この和名になじみのない方でも、スーパーの冷凍コーナーで売られている「ブラックタイガー」の流通名はご存知でしょう。成体は体色が黒っぽい地に黄色のトラ縞模様で、最大で体長30cm以上になります。日本では主に沖縄などの南の海で暮らしています。最近、本種の稚エビが茨城県内の複数の水域で相次いで見つかりました。

水域や汽水湖の涸沼で実施した調査で、ウシエビの稚エビ(写真1、2)が採集されました。このことについては、標本記録に基づく北限の更新として論文でも公表しました。

黒潮の影響を受ける日本沿岸はウシエビの分布の最も北に当たり、証拠標本を伴う分布の北限は東京湾もしくは千葉県房総半島とされてきました。ところが私たちを含む研究チームが2021〜2023年に茨城県内の4河川(神栖市の利根川から北茨城町の江戸上川まで)の河

ウシエビが採集された年の茨城県沿岸海域の表層水温を調べてみると、黒潮からの暖水波及の影響とみられる20℃以上の高水温の期間が平均(過去30年の平均値)と比べてだいぶ長いことがわかりました。温かい海で育つウシエビは低水温に耐えられないため、この海域で越冬する可能性は低いものの、今後、海水温の上昇によって南方海域からの稚エビの加入機会が増えたり、茨城県より北の海域でも出現したりする可能性があります。しばらくは動向を注視したいと思います。

東邦大学理学部東京湾生態系研究センター
中山聖子
茨城大学水圏環境フィールドステーション
加納光樹



(写真1) 茨城県の河川で採れたウシエビの稚エビ



(写真2) ウシエビの稚エビの標本

リポーター…

高橋将行 隊員



地域おこし協力隊通信 第60回

こんにちは、高橋です。先日、弟子入りしている箏(こと)・社中の発表会が終了しました。約9か月にわたって、「みだれ」というお箏の曲を勉強していたわけですが、曲想や技法に苦戦しながらも、本番は完全燃焼で終了することができ、そして現在は燃え尽き症候群の真っ最中です。さて、先月号の地域おこし協力隊しんぶんでお伝えしましたとおり、協力隊3人は本年度から市役所庁舎を飛び出し、空き家を活用した拠点(名称未定)を構えて活動しています。羽下隊員が中心となり、拠点の整備や活用についてアイデア出しをしているところでもあります。昨年度、羽下隊員が受講した「空き家活用講座」を私も受講していたこともあり、この4LDKの拠点について、運用プランを考えるのが楽しみでなりません。

遊んでいたいたり、私の三味線演奏を伴奏にして日本舞踊の体験が出来るというように、「格式高そうな遊び・芸事を子どもでも大人でもラフに出来る乙な空間」はいかがでしょう。絨毛氈(ひもうせん)を和室全体に敷いた空間で時間を過ごし、そして最後は「潮来出島」を聴いてしっかりと締める…我ながらなかなか良いプランです。

和室という日本独自の空間を使って「遊び・芸事」を体験していただき、またお越しになった皆さんにも「客を楽しませる設え(しつらえ)・コンテンツ」を考えていただく空間！というのが高橋の運用案でございます。実装するかはわかりませんが、早くも日本民謡の三味線譜面を購入してしまっただので、演奏の練習をしていきたいと思っています。(高橋)

※投扇興(とうせんきょう)

桐の箱の上に立てられた目標物に向かって扇を投げ、目標物と扇の倒れ方を点数化し、得点を競うゲーム。



↑演奏中の高橋



↑投扇興セット
江戸時代には庶民の間で大流行したらしいです。